

# 「板金加工の専門家集団」

## 板金加工を通じて、お客様から必要とされるものづくりを

### 株式会社 仁張工作所



左：仁張 茂 社長 右：仁張 正之 会長

#### 株式会社 仁張工作所

代表取締役社長：仁張 茂 氏

本 社：東大阪市水走 3 丁目 14 番 6 号

創 業：1964 年（昭和 39 年）

従業員数：84 名

事業内容：精密板金加工・箱物板金加工・  
別注スチール家具・  
什器の設計製造

URL：<https://nimbari.co.jp/>



本社外観

多品種変量生産体制のもと、多業種・多業界に精密板金加工製品を展開している仁張工作所は、変化の激しい現在も既存のお客様のサプライパートナーとしての地位を確保し新たな製品開発にも力を入れています。今回は同社取締役会長の仁張正之氏・代表取締役社長の仁張茂氏に、創業からの事業変遷や製品開発に関する取り組み、今後に向けた展望についてお話を伺いました。

#### — 家具の設計から

##### 板金部品のサプライヤーへ

1964 年 10 月 1 日、東海道新幹線が開通した記念すべき日に仁張工作所は産声をあげました。創業は私たちの父仁張清之介で、東大阪市森河内の 7 坪の貸工場からスタートしました。父は金庫メーカーで設計業務に携わっており、その知見を活かしてスチール製の棚や家具を製造する会社として立ち上げました。

ごくわずかな退職金で始めたため、大した設備もない状態でしたが、世の中は高度経済成長の真っただ中、社会インフラの整備も進んでいたため、官公庁関係の仕事で忙しい日々を送っていたそうです。

仕事があまく回り出すと徐々に設備を整え、1986 年 7 月に東大阪市水走に塗装設備を含む一貫生産工場を新設し本社工場としました。



当時の本社工場の様子

当社は今年 60 周年を迎えますが、これまでに大きく 2 つの転機がありました。1 つは、創業して 10 年経った 1975 年に当時最新のタレットパンチプレスを導入したことです。当時は非常に画期的な機械であり、大阪で 3 台目と聞きました。当時の年商より高額な機械でしたが、これからはこのような最新の機械がなければ、より良い仕事はできないだろうと考え、導入を決断したそうです。結果、当社が成長する大きな原動力となりました。

2 つ目は、本社工場を建設する時に自社で塗装もできるようにしたことです。これにより設立当初からの強みである図面を描くことから始まり、最新の機械で曲げや抜きを行い、自社で塗装までできる、一貫生産体制を作り上げました。現在は「最終完成品まで作り上げることができるトータルメーカー」を強みとして、幅広い分野に箱物板金加工製品・精密板金加工部品を展開しています。

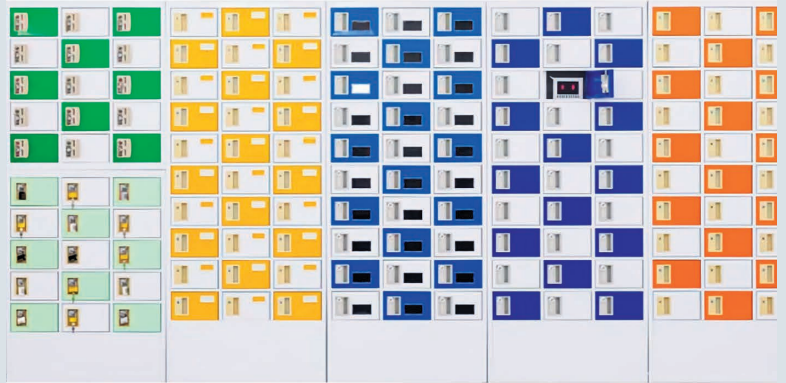
#### — こだわり抜いた自社製品で

##### 理想をカタチにする

2000 年以降は時代の波にもまれながらも、試行錯誤を繰り返し事業を進めています。2000 年頃は OEM 生産や下請け仕事売り上げの 100%でしたが、2003 年頃からインターネットで BtoC 営業ができるようになり、ホー

## オリジナルロッカーのこだわりポイント

貴重品ロッカー「N-FORM」は、これまで0.1mm単位で扉の開閉のしやすさにこだわってきた技術に加えて、用途や施設の規模により、錠前のセレクトや扉カラー、サイズ変更ができるセミオーダーにも力を入れています。仕事前にロッカールームで貴重品を預けたり、扉を開けて貴重品を入れて鍵を閉めたり、それだけの行為ですが彩り豊かなロッカールームが1日の中に心が弾む瞬間を与えてくれます。設計から塗装まで一貫生産体制が可能な当社だからこそお客様に提供できるポイントです。



ホームページを通じてオリジナル製品の販売を行っています。

2010年代は皆さん記憶にあるでしょうか、プリクラが全盛期を迎えており、プリクラ機の製造で忙しくしていました。しかし2018年にそのブームは去り、これまでが嘘のように仕事が減少しました。さらに2020年からはコロナウイルスの影響で、さらに厳しい状況に追い込まれました。

こうした状況を受け、今まで通りのサプライヤーの仕事だけでは今後の会社の存続は厳しいと考え、下請けの仕事は少しずつ選別していき、オリジナル商品を増やしていこうと考えました。量産品では大企業に太刀打ちできませんので、当社はストライクゾーンを絞って、密度の濃い仕事をするように意識しています。

当社が特に力を入れているオリジナル製品は、スポーツロッカーや貴重品ロッカーです。プロスポーツ選手の現場やホテル、温泉などさまざまな現場で活躍しています。

毎日のように製品化される新規製品の中で、製作検討会、製品(初回品)検証といった場面があります。設計担当はじめ社員みんなで「これでいいのか、使い勝手はどうか」という点に重きをおいて確認していきます。思いの入った製品は、経営陣も現場へと足を運び、徹底的に議論していきます。

これが仁張工作所のものづくりのこだわりのひとつではないかと思えます。



同社のオリジナル製品  
左上：スポーツロッカー  
右下：貴重品ロッカー

### 一世の中に必要とされる

#### 企業を目指す

この先も会社を続けていくためには、世の中から必要とされる存在にならなければなりません。そのために、まずは当社の存在を世の中に知ってもらうことが必要だと考えました。

最も力を入れているのは会社ホームページです。それ以外にも板金に特化したホームページと8つの製品サイト、計10個のサイトがあり、できるだけ多くの方の目に留まる工夫をしています。現在はホームページからの注文が大半を占めています。

また、社長インタビューと題して私自らが話している動画をYouTubeにアップしたり、企画・設計部門から完成まで私が案内をする工場見学も積極的におこなったり、さまざまな角度から当社を知ってもらえるように試行錯誤しています。

今ある商品、今ある会社がこの先無くなることは時が流れる中でどうしても起こってしまいます。しかし、板金加工がなくなることはありません。時代の移り変わりとともに、求められる商品も変化していきます。その中で私たちは何ができるのか、いかに他社と差別化が図れるかが重要になります。

その実現のため、私たちは「板金加工の専門家集団」を目指すことにしました。板金加工と言えば仁張工作所と認知してもらい、声をかけていただけるように、これからも製品開発、技術開発に力を入れていきます。

— 貴重なお話をいただき、  
ありがとうございます。